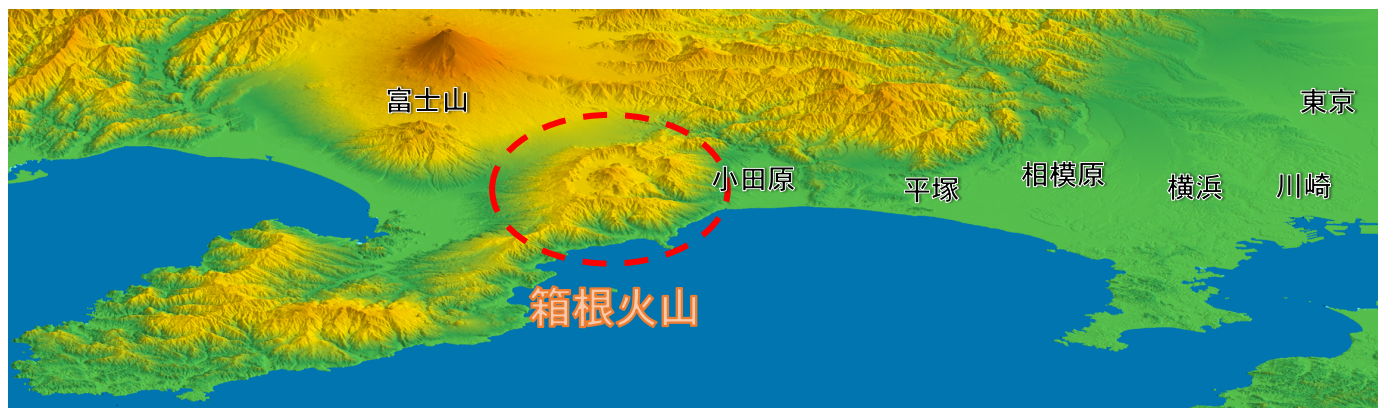




箱根火山防災シンポジウム

箱根火山の活動と防災を考える

～現状とこれからの箱根ジオパーク～

主催：神奈川地学会・箱根ジオパーク推進協議会



趣旨

2019年8月現在、箱根火山は噴火警戒レベル2が続いている状況です。箱根火山は神奈川県西部に位置する身近な火山であり、過去の活動は、ジオサイトだけでなく関東の地層の中にも様々な痕跡を残しています。一方、箱根火山のことを多くの人々に知ってもらおうと事業を展開している箱根ジオパークの活動も「日本ジオパーク」認定以来7年目を迎えています。

そこで、箱根火山の恵みだけでなく、これからも噴火のタイプや規模によっては、災害を及ぼす可能性があることについても学び、今後の生活に役立てていきたいと考えます。

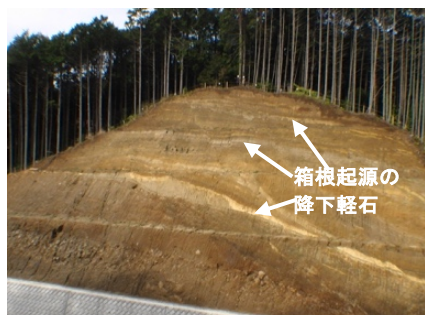
火山活動観測の最前線、箱根ジオパークでの社会教育活動、学校教育や社会教育での地学・防災普及活動の報告から、よりよい防災意識と積極的な活動参加を促すジオパーク活動をめざし、本シンポジウムを開催します。

- 日時 2019年9月7日（土） 13:30～16:30 （受付13:00～）
- 場所 神奈川県立生命の星・地球博物館 1階 講義室
- 入場無料 事前申し込みは不要 問い合わせ先「神奈川地学会 HP」コンタクト・フォームから
- 対象 どなたでも（ジオガイド、ジオパーク関係者、教員、行政、一般の皆様、歓迎します）
- シンポジスト

- ・ 瀧 沢 倫 明（神奈川県温泉地学研究所 火山対策調整官）
「箱根山の活動状況」
- ・ 笠 間 友 博（箱根町立箱根ジオミュージアム 学術研究担当）
「ジオパーク活動の現場から箱根火山を伝える」
- ・ 鷲 山 龍 太 郎（防災士・元横浜市立小学校長）
「身近な火山を学ぶ理科教育と防災教育を学校や地域で推進する」



活発な噴気活動が続いている
大涌谷内の火口（中央）や噴気孔（手前）



箱根南東斜面に見られる箱根降下軽石（白っぽく見える地層）箱根が数千年の間隔を置いて噴火を繰り返してきた事実が読み取れる。



6.6万年前、箱根は最大級の噴火を起こした。神奈川県域を降下軽石で覆い、火砕流は横浜市戸塚区に達した事実を地層が語る。（戸塚区名瀬町）



生命の星・地球博物館で行った箱根火山を作る模型実験。二子山は、複数回の噴火により形成された。二子山からと推定される火砕流の地層が博物館近くでも見出される。